

重度重複障害と ICT 機器

近年の学校現場においては、タブレットや電子黒板などの ICT 機器を活用した授業が盛んにおこなわれている。特に特別支援学校においては、言語的コミュニケーションが難しい生徒や、視覚や聴覚に障害をもつ生徒などにとっては今や欠かせないコミュニケーションツールとなっているだろう。今回は、その中でも言語的コミュニケーションが難しい重度重複障害をもつ生徒への支援機器・アプリケーションについて紹介する。

1. DropTalk

これは、「App の中に入っている 700 個以上の、シンボルと呼ばれるイラストの中から好きなものを選んだり、自分たちで写真や動画を撮って新しいシンボルを作ったりして使います。デバイス上に表示されたシンボルをタップすると、そのシンボルの持つ意味を、App に登録された音声で読み上げて」(1) くれるものである。子どもたちの「うれしい」や「ありがとう」などの自発的なコミュニケーションを活発にすることを目的としており、シンボルも自分で撮った写真などから自由にカスタマイズできる。



2. EyeMoT

「アイモットは、画面上の動物に視線を向けると鳴き声が出たり、動く風船を注視して撃ち落としたりするゲームがあり、楽しみながら視線入力を習得できる。」(2)これは、寝たきりで指も使えない人でもコミュニケーションをとることができるアプリだ。ゲーム性があるため、視線入力のための訓練と聞くと気負う人でも、達成感を覚えながら、練習を重ねていくことができるだろう。

一部のゲームの紹介

 <p>風船割り</p> <ul style="list-style-type: none">・「成功体験」を積むことができます・「わかっている」ことがわかります	 <p>対戦めり絵</p> <ul style="list-style-type: none">・重度心身障害者でも対戦に参加できます・どこにいても誰でも同じ土俵で遊べます
 <p>ブロックくずし</p> <ul style="list-style-type: none">・左右の動きだけで簡単に遊べます・ルールがわからなくても遊べます	 <p>あいうえお表</p> <ul style="list-style-type: none">・ひらがなを学ぶことができます・読み上げ機能で意思伝達装置の練習ができます

参考・引用文献

(1) ドロップレット・プロジェクト,

(<https://apps.apple.com/jp/story/id1514337808>)(2024年1月14日)

(2) 東京新聞「eyeMoTで世界を広げたい」

(<https://www.tokyo-np.co.jp/article/233183>)(2024年1月14日)

○ICT機器を使用した重度重複障害児の支援および指導・評価を一体化した実践の研究,2019,横浜市立菅田特別支援学校